

幹線道路の事故特性と住民の安全意識

～ 豊田市の一地区を例として～

(財) 豊田都市交通研究所 正 会 員 杉浦 詔子

(財) 豊田都市交通研究所 正員-会員 伊豆原浩二

1. はじめに

豊田市を走る国道 153 は古くから主要な幹線道路で、特に越戸周辺集落（以下越戸地区）の R153 では毎年死亡事故が起きるなど事故の多い路線である。この越戸地区の事故問題に対し、平成 12 年信号機の新設に加え、越戸地区の 7 自治区が「反射材普及交通安全モデル地区」の指定を受け、反射材普及による交通安全活動を開始した。

本研究では、こうした事故対策や啓発活動にともない、改めて越戸地区 R153 の事故特性について整理するとともに、この路線に対する住民の意識について調査した。

2. 越戸地区 R153 の事故特性

今回の研究対象とした R153 は既設の信号交差点間の 2.2 km の範囲である。交通量は平日 24 h 15,426 台、休日 24 h 13,219 台、片側 1 車線の 2 車線道路であるが、幅員や歩車区分は場所によって異なる。また既設信号交差点の横断歩道を除き、横断歩道が 9 ケ所、横断歩道橋が 1 ケ所設置されている。

(1) 事故発生地点

国の直轄国道で事故発生地点が 100 m ごとに分析されていることにならい、独自に 100 m ごとの区間を設定し、北から順に 22 までの数字を振った。この 2.2 km 内では、平成 7 ～ 11 年の 5 年間で死亡事故 6 件、重傷事故 2 件を含む 61 件の人身事故が発生しているが、区間別に事故の発生状況を見ると(図 2-1)、6 つの区間で 5 年間事故が発生していないこと、残り 16 の区間の中でも 1,15,16,22 では事故が多く発生していることがわかる。また、死亡事故は既設の信号交差点を含まない区間 6,7,10,15,16 で起きていることがわかる。

図 1 - 1 越戸地区 R 1 5 3

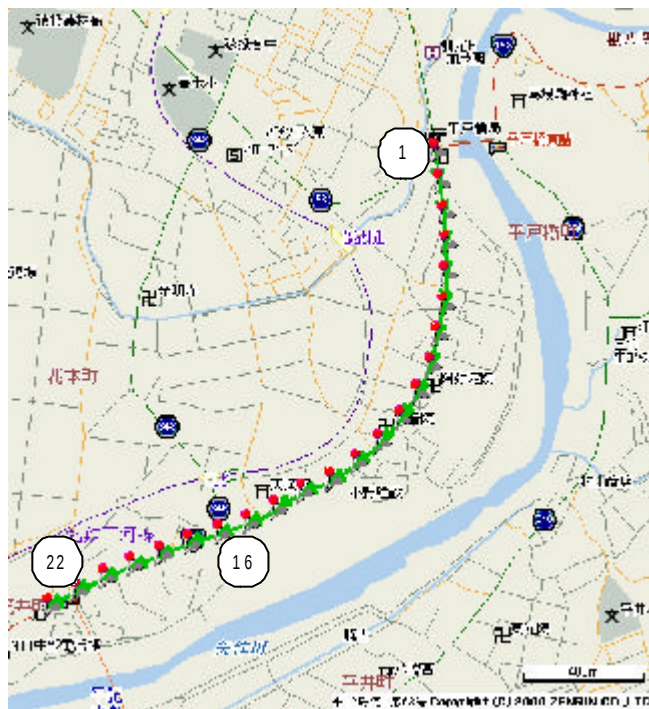
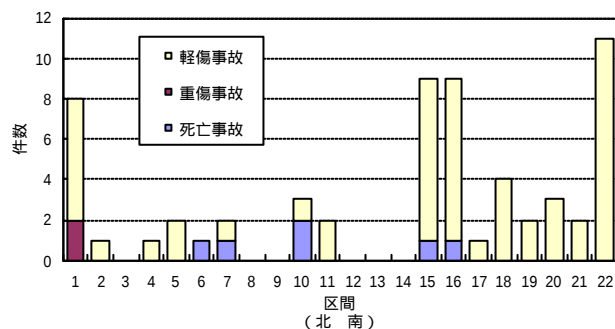


図 2 - 1 区間別事故発生件数

区間別事故件数（平成 7 ～ 11 年）



次に、事故の発生した 16 の区間ごとに、事故発生時間を昼夜別に、事故発生地点を道路形状別に、事故の形態を事故類型別にみることにする。

(2) 昼夜別事故

豊田市の人身事故の約 3 割が夜間（暗くなってから）に発生しているのに対し、この路線(2.2 km内)では夜間の事故が 4 割を超えている。死亡事故の 2/3 も夜間の事故である。区間別にみると、区間 15 で

キーワード：交通事故，住民意識

連絡先：〒471-0025 豊田市西町 4-25

Tel0565-31-7541, Fax0565-31-9888

E-mail: izuhara@ttri.or.jp, sugiura@ttri.or.jp

は約 4 割が夜間の事故、2 件以上事故の発生した区間でも夜間の事故のみが 3 区間ある。

(3) 道路形状別事故

路線で発生した事故の約 5 割は交差点内、約 1 割が交差点付近の事故である。区間別にみると、区間 1,22 が信号交差点を含むことから交差点内及び交差点付近の事故が多く、区間 15,16 でも交差点内の事故が多く見られる。

(4) 事故類型別事故

市内の人对車両や車両単独事故がそれぞれ人身事故の 1 割に満たないのに対し、この路線では 18 % が人对車両事故であり、死亡事故の半数も人对車両事故である。区間別で人对車両事故が多いのは 1,15 であり、そのほとんどが横断歩道横断中の事故である。一般的に人对車両事故ではその他横断中の事故が多いがこの路線ではそれは 1 件に過ぎない。また、車両相互の事故では追突や出合頭の事故が多く見られる。

(5) 学区居住者の事故関与

さらに越戸地区のある小学校区居住者が当事者として事故に関与していたかどうかをみると、区間 15,16,22 で多く見られる(図 2-2)。

3. 住民の安全意識

この小学校区の小学校 5 年生児童の保護者を対象に平成 13 年アンケート調査を実施し、越戸地区 R153 について訊ねた。回答者は 119 名、その 8 割は母親で、30 歳代、40 歳代が主な年齢層であった。

アンケートによると、回答者の 68 人が越戸地区 R153 を週 4 日以上通行しており、そのうちの 9 割は自動車で通行している。この自動車でよく通行している者の 2 割がこの路線では「他の国道に比べ、特に注意して通る」、4 割が「少し注意して通る」としている。注意の対象としては「歩行者・横断者」を 6 割以上が挙げている。

この 68 人は、横断歩道を渡る歩行者の立場としては 3 割が「車は止まることが多い」、6 割以上は「あまり止まらない」と答えている(図 3-1)。逆にドライバーの立場としては 7 割が横断歩道で「前後の車の状況で止まることが多かった」、一方 2 割が「状況で止まることが少なかった」と答えている。

また越戸地区で行われている反射材普及活動につ

いては、自治区以外の回答者も含まれるが、41 % が活動を知っており、25 % が「活動は知らないが興味がある」と答えている。

図 2 - 2 事故発生区間と学区居住者の事故関与

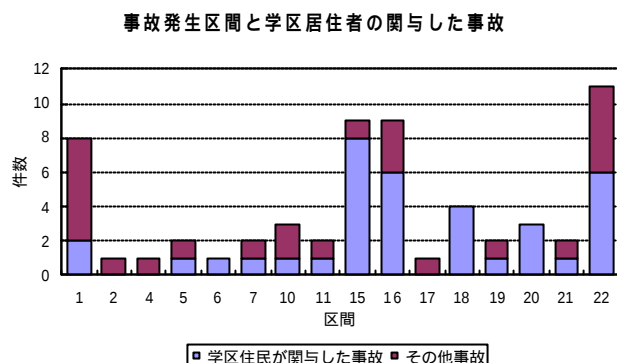
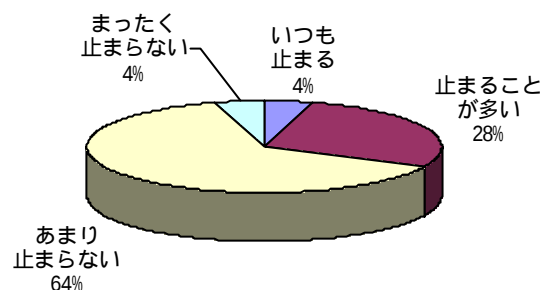


図 3 - 1 歩行者側から見た車の挙動



4. 調査から得た知見

越戸地区 R153 では、横断歩道が整備されていることもあり乱横断による事故は少ないが、本来安全であるはずの横断歩道で事故が発生する結果となっている。アンケートでも通行頻度の高いドライバーの多くが歩行者や横断者に特に注意しており、歩行者(横断者)に関する問題が浮かび上がってくる。

地区をあげての反射材普及活動は、夜間の事故も多いことから問題意識を持った啓発活動であり、今後も着目していきたい。

5. おわりに

今後は、信号機の新設後の事故件数の変化や事故の多く発生している区間での交通行動、沿線状況などさらに分析を進めるつもりである。

事故データの提供、並びにアンケートに協力いただきました各関係機関に深く感謝いたします。